

鹿児島県歴史・美術センター黎明館
Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

黎明館企画展

南九州の

古道

Kodo of Southern Kyushu

2022

8/30 TUE



11/20 SUN



- 赤色土器 ▲ 赤色高台を有する黒色土器
- 常滑焼 ◆ 焼塩壺 厨: 厨墨書 帯: 帯金具・石帯
- 凸 中世城館 中近世牧
- 駅路案(武久説)
- 駅路案(発掘成果等)
- 駅路案(藤岡説)
- 島津荘内貢納路
- 歴史の道調査報告書記載交通路
- 現道
- 水系

会場／黎明館 3階 企画展示室 休館日／毎週月曜日 (9/19、10/10 は開館)、9/20、10/11、10/25

時間／9:00～18:00 (入館は17:30まで)

料金／常設展示と共通 一般 400円(300円)、高校・大学生 250円(150円)、小・中学生 150円(80円) ※ () は 20名以上の団体料金

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催期間やイベントを変更または中止にする場合があります。

七世紀後半、中央集権的な律令体制を目指す古代国家は、白村江の敗戦以後、都周辺から放射状に全国の各国府を直線的に結ぶ七道と呼ばれる官道を整備します。東海道・北陸道・山陰道・山陽道等の古代官道に由来する広域地名は現在も継承されています。南九州ではまだまだ不明な点が多い古代の道を探す手がかりを紹介します。

第1章

古代の道

律令の規定では約16km毎に駅を設置し、駅に配置された駅馬を乗り継いで緊急連絡に対応します。大宰府-平安京間(大路)には58駅が設置され、平均駅間距離10.5kmと充実しています。当時の規定では、この区間を徒歩では14日で移動することになります。奈良時代の反乱では大宰府-平城京間を4日で連絡しており、駅制を利用したことが窺われます。

第2章

南九州の官道

九州地方は西海道と呼ばれ、平安時代には全国の駅の4分の1が集中しました。大宰府-筑後国府-薩摩国府を結ぶ西海道西路、大宰府-日向国府-大隅国府を結ぶ西海道東路、肥後国芦北郡佐職駅-日向国諸県郡-日向国府を結ぶ肥後-日向連絡路の三つの官道が南九州を巡っていました。県内では、薩摩国府と大隅国府を結ぶ蒲生駅付近の駅道が見つかっています。

学芸講座 (展示解説関連講座)

「南九州の古道」

日時 9月11日 [日]
13:30~15:00
講師 黎明館主任学芸専門員
上村 俊洋
会場 黎明館3階 講座室
※ 学芸講座は、事前申込制です。
申込方法の詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。
※ 講座後の展示解説はありません。

展示の構成

第3章

出土遺物分布から探る道

国府の役所「厨」に関する厨墨書土器が薩摩半島各地から出土するほか、薩摩半島の赤色土器、大隅半島北部の焼塩土器、古代菱刈郡を中心に広がる赤色高台付黒色土師器等の分布から文献資料に見えないながらも、国府と郡衙(郡の役所)等を結ぶ古代交通路の存在が指摘されています。

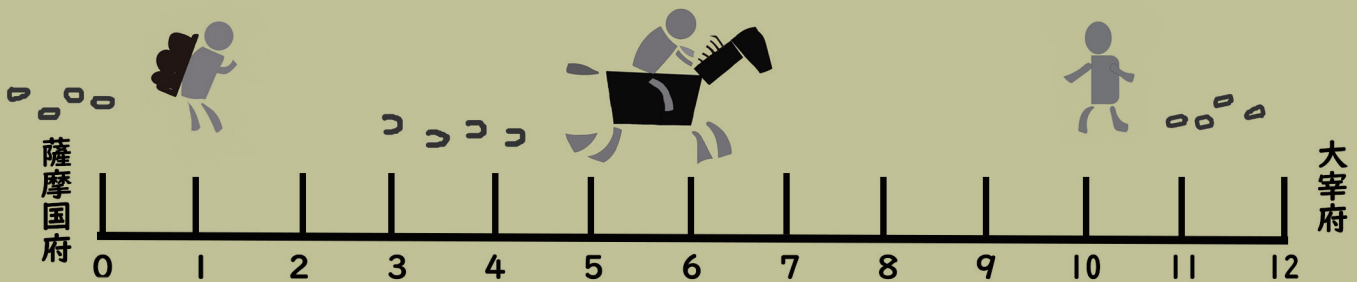
第4章

古代交通路のその後

維持管理に莫大な労力を要する古代官道は平安時代中頃から廃れますが、その経路は中世以降も主要な交通路として継承された可能性があります。鎌倉時代以降の常滑焼の分布や、中世城館の立地、中・近世の牧の分布等は、江戸時代の街道や現在の国道・県道等の主要な交通路沿線にみられます。

展示解説

日時 9月3日 [土]
10月23日 [日]
11月12日 [土]
いずれも13:30~14:10
会場 黎明館3階 企画展示室
※ 要入館料、事前申込不要



Access

アクセス

◎ 鹿児島空港から鹿児島市行き空港バス「市役所前」下車徒歩7分 ◎ JR鹿児島駅から徒歩15分 ◎ 市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車徒歩7分 ◎ 市内巡回観光バス「薩摩義士碑前」下車すぐ
駐車場/普通車 125台 バス 20台

Annual Passport

年間パスポート



販売期間
8/30 (火) - 11/20 (日)

一般 800円
高校・大学生 500円
小・中学生 300円

発行から1年間の有効期間中、何度でも常設展示をご覧ください。

